

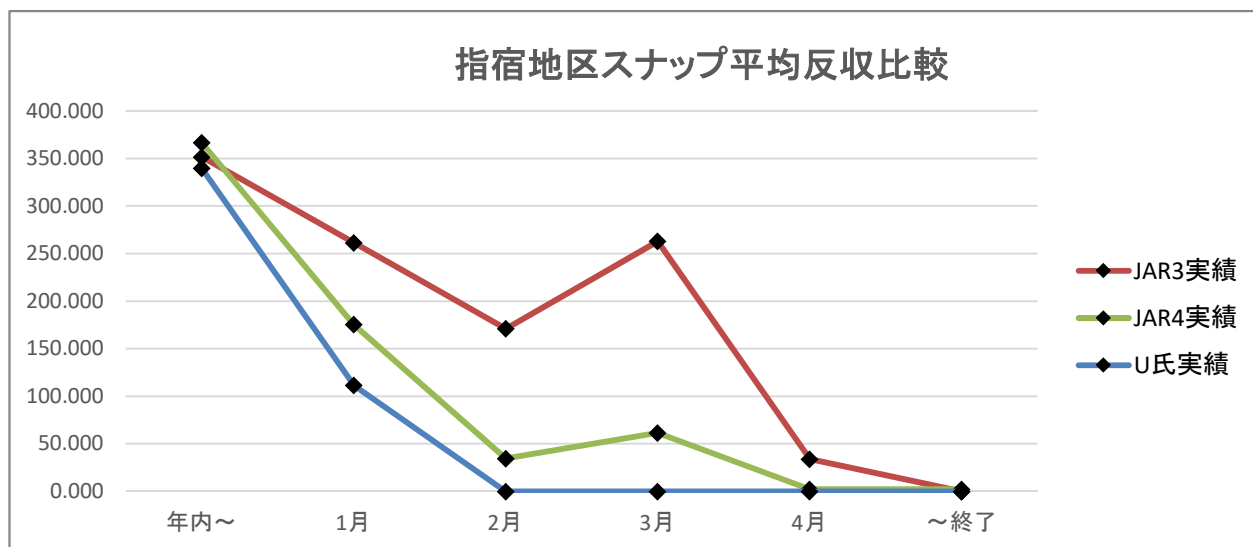
指宿市(指宿地区)寒波に対する実証試験結果(スナップえんどう)

単位 (ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(指宿) スナップえんどう出荷実績 (反収)	38	351.6	261.3	171.1	262.9	33.9	0	1,080.8
R4JAいぶすき(指宿) スナップえんどう出荷数量 (反収)	39	366.7	175.4	34.6	61.5	2.3	2.3	642.8
指宿地区耕作U氏反収	0.13	339.6	111.7	0	0	0	0	451.3

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

指宿地区	スナップ反収
A 令和3年産JA	1080.8kg
B 令和4年産JA	642.8kg
C U氏	451.3kg
減少率(1-(C/A))	58.2%



【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月29日～30日に樹勢回復を図るために摘莢作業を実施。

また、1月26日に葉面散布を実施した。

しかし、樹勢が回復することなく、株全体が枯死してきたため、2月5日以降に片付けを行った。

実績としては、JAの令和3年度産(反収1,080.8kg/10a)の実績に比べ58.2%減収(反収451.3kg/10a)となった。

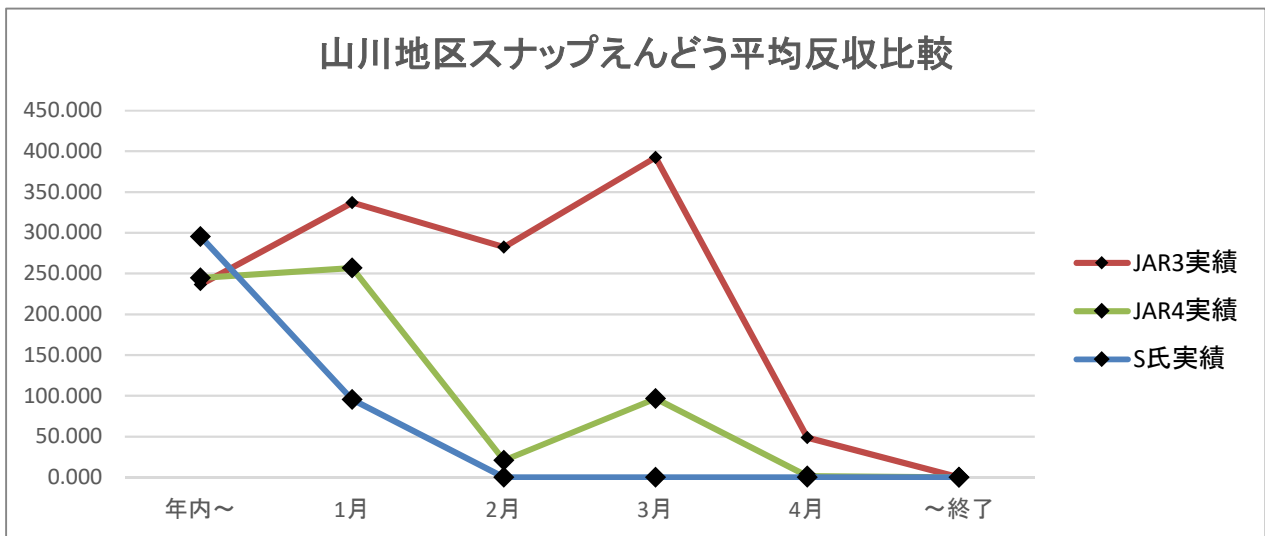
指宿市(山川地区)寒波に対する実証試験結果(スナップえんどう)

単位 (ha, kg/10a)

	面積 (ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(山川) スナップえんどう出荷実績 (反収)	41	236.6	337.1	282.2	392.4	48.5	0.0	1,296.8
R4JAいぶすき(山川) スナップえんどう出荷数量 (反収)	42	244.5	256.9	20.7	96.7	1.4	0.0	620.2
山川地区耕作者S氏反収	0.5	295.4	95.4	0.0	0.0	0.0	0.0	390.8

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績, 「～終了」は5月から収穫終了までの実績

山川	スナップ
A 令和3年産	1,296.8kg
B 令和4年産	620.2kg
C S氏	390.8kg
減少率(1-(C/A))	69.9%



【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月28日に樹勢回復を図るために葉面散布を実施。

さらに、2月8日にも再度葉面散布を実施した。

しかし、2月以降の出荷は霜蒺のため出荷できず、3月20日に片付けを実施した。

実績としては、JAの令和3年度産(反収1296.8kg/10a)の実績に比べ69.9%減収(反収390.8kg)となった。

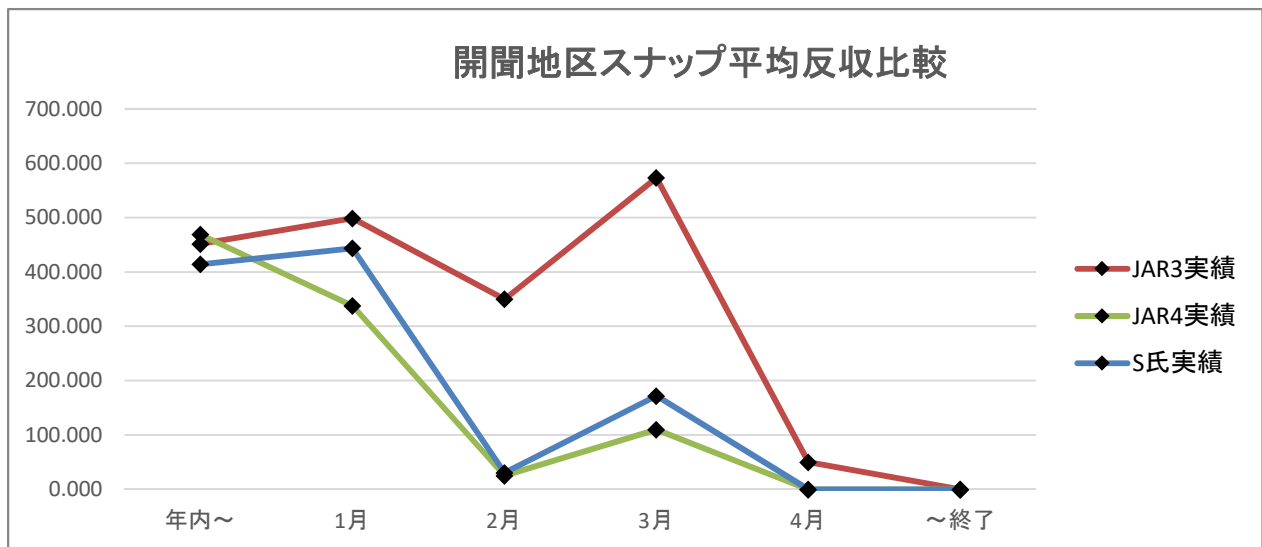
指宿市(開聞地区)寒波に対する実証試験結果(スナップえんどう)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(開聞) スナップえんどう出荷実績 (反収)	15	451.3	498.7	350.0	573.3	50.0	0.0	1,923.3
R4JAいぶすき(開聞) スナップえんどう出荷数量 (反収)	18	468.9	337.8	25.0	110.0	0.0	0.0	941.7
開聞地区耕作 S氏反収	0.175	414.2	443.7	30.6	171.9	0.0	0.0	1060.5

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

開聞地区	スナップ反収
A 令和3年産JA	1923.3kg
B 令和4年産JA	941.7kg
C S氏	1060.5kg
減少率(1-(C/A))	44.9%



【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月29日に樹勢回復を図るために摘莢作業を実施。

また、1月26日に葉面散布を実施した。

その後、樹勢が回復が思わしくなく、出荷量は例年より減少し、4月22日以降に片付けを行った。

実績としては、JAの令和3年度産(反収1923.3kg/10a)の実績に比べ44.9%減収(反収1060.5kg/10a)となった。

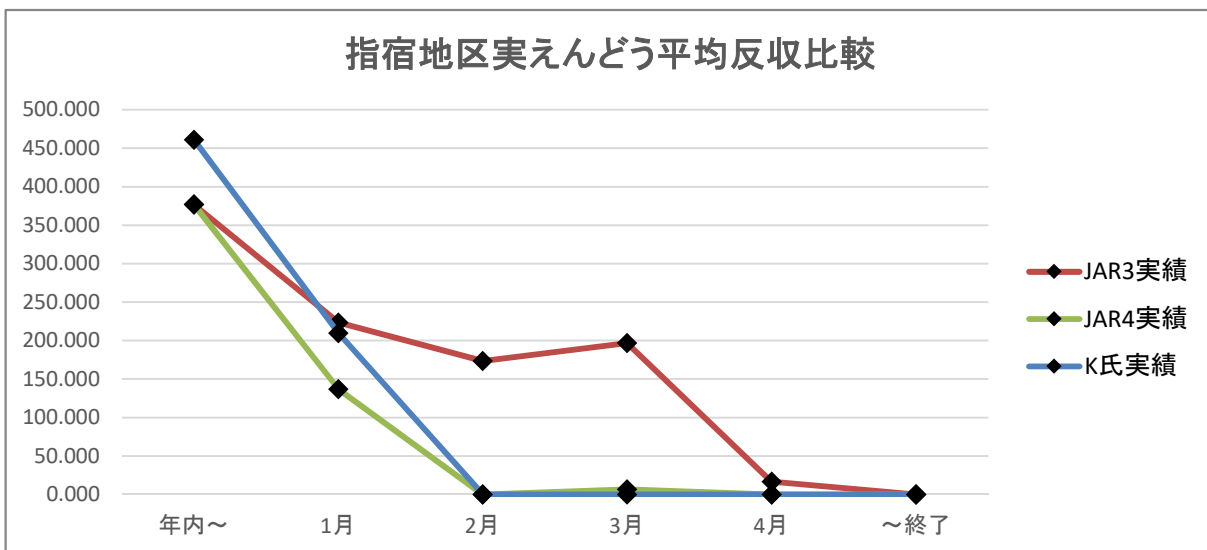
指宿市(指宿地区)寒波に対する実証試験結果(実えんどう)

単位 (ha, kg/10a)

	面積 (ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(指宿) 実えんどう出荷実績(反収)	3	376.7	223.3	173.3	196.7	16.7	0.0	986.7
R4JAいぶすき(指宿) 実えんどう出荷数量(反収)	3	376.7	136.7	0.0	6.7	0.0	0.0	520.0
指宿地区耕作K氏反収	0.12	460.8	209.8	0.0	0.0	0.0	0.0	670.5

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績、「～終了」は5月から収穫終了までの実績

指宿地区	実えんどう反収
A 令和3年度産JA	986.7kg
B 令和4年度産JA	520.0kg
C K氏	670.5kg
減少率(1-(C/A))	32.0%



【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月27日に樹勢回復を図るために葉面散布を実施。

少しでも収量を確保するために軽度の霜英についてはC品で出荷を図ったが、株全体が枯死してきたため、2月15日以降片付けを行った。

実績としては、JAの令和3年度産(反収986.7kg/10a)の実績に比べ32.0%減収(反収670.5kg/10a)となった。

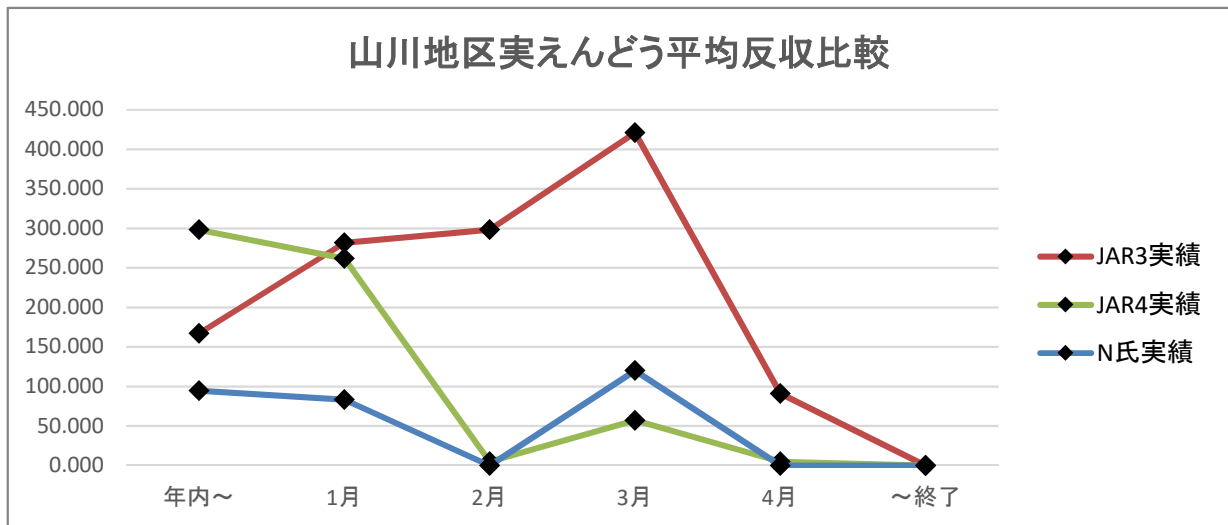
指宿市(山川地区)寒波に対する実証試験結果(実えんどう)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(山川) 実えんどう出荷実績(反収)	11	167.3	281.8	298.2	420.9	90.9	0	1,259.1
R4JAいぶすき(山川) 実えんどう出荷数量(反収)	10.5	298.1	261.9	4.8	57.1	4.8	0	626.7
山川地区耕作者N氏反収	0.35	95	83.5	0	120	0	0	298.2

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績、「～終了」は5月から収穫終了までの実績

山川	実えんどう
A 令和3年産	1259.1kg
B 令和4年産	626.7kg
C N氏	298.2kg
減少率(C/A)	76.3%



【結果及び考察】

寒波後の令和5年2月1日に樹勢回復を図るために葉面散布を実施。

2月6日には摘莢作業を実施した。

しかし、株全体が枯死したため4月11日に片付けを実施した。

実績としては、JAの令和3年度産（反収1,259.1kg/10a）の実績に比べ76.3%減収（反収298.2kg/10a）となった。

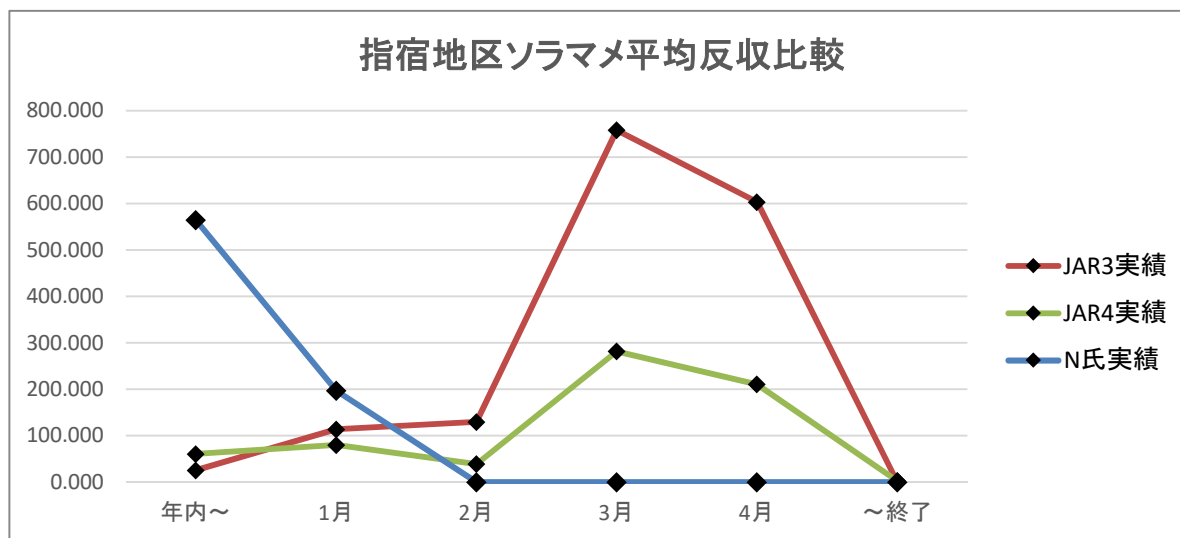
指宿市(指宿地区)寒波に対する実証試験結果(ソラマメ)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(指宿) ソラマメ出荷実績(反収)	20.2	25.2	113.9	129.7	757.9	603.0	0	1,604.5
R4JAいぶすき(指宿) ソラマメ出荷数量(反収)	20.1	60.7	79.6	38.8	281.6	210.4	2.49	612.9
指宿地区耕作F氏反収	0.06	564.32	196.8	0	0	0	0	196.8

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

指宿地区	ソラマメ反収
A 令和3年産JA	1604.5kg
B 令和4年産JA	612.9kg
C N氏	196.8kg
減少率(1-(C/A))	87.7%



【結果及び考察】

寒波後の令和5年1月26日から28日にかけて樹勢回復を図るために摘莢作業を実施。

しかしながら、樹勢が回復することはなく、株全体が枯死してきたため、5月20日以降片付けを行った。

実績としてはJAの令和3年度産(反収1,604.5kg/10a)の実績に比べ87.7%減収(反収196.8kg/10a)となった。

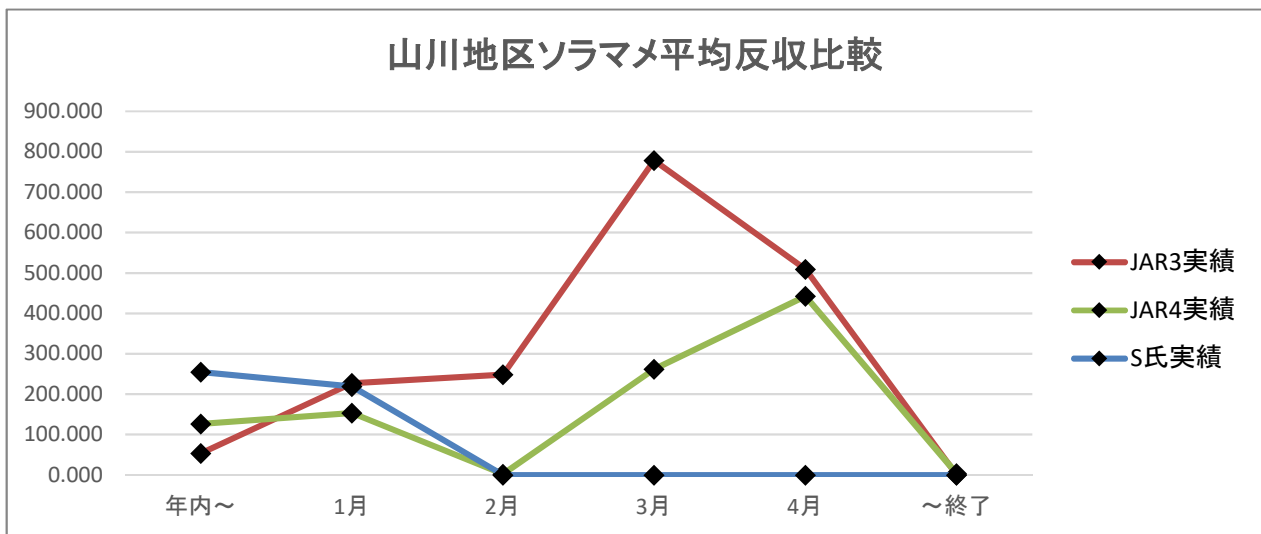
指宿市(山川地区)寒波に対する実証試験結果(ソラマメ)

単位(ha, kg/10a)

	面積(ha)	年内～	1月	2月	3月	4月	～終了	合計
R3JAいぶすき(山川) ソラマメ出荷実績(反収)	66.9	53.4	226.8	248.9	778.8	509.0	0.4	1,817.2
R4JAいぶすき(山川) ソラマメ出荷数量(反収)	60.7	126.2	153.4	2.5	262.3	442.5	3.3	990.1
山川地区耕作者S氏反収	0.23	254.7	219	0.0	0.0	0.0	0	473.6

※「年内～」は収穫開始から12月末までの実績,「～終了」は5月から収穫終了までの実績

山川	ソラマメ
A 令和3年産	1,817.2kg
B 令和4年産	990.1kg
C S氏	473.6kg
減少率(1-(C/A))	73.9%



【結果及び考察】

寒波後令和5年1月28日に樹勢回復を図るために葉面散布を実施。

しかし、2月以降の出荷は霜災のため出荷できず、2月20日に片付けを実施した。

実績としては、JAの令和3年度産(反収1,817.2kg/10a)の実績に比べ73.9%減収(反収473.6kg/10a)となった。

寒波等による農作物等の被害からの早期の生産回復 営農再開に向けた対策に係る実証事業総括

今回、寒波等被害早期生産回復・営農再開対策実証事業に取り組んだ。

取り組み内容としては、寒波被害後、早期の営農再開・生産回復のため実施した追加的な薬剤散布（葉面散布）や摘果作業（豆類）による収量の変化について調査を行うとともに、これらの対策効果の実証を行った。

薬剤及び液肥等の葉面散布の効果としては、被害後の植物体の樹勢を回復するとともに、樹勢低下時に懸念される罹病による2次被害の予防の効果が期待される。

摘果作業は、植物体にかかっている負荷を取り除くことで樹勢の回復効果が期待される。

実証の方法として、スナップえんどう、実えんどう、ソラマメの作物ごとに、30件に1件の割合で、最低2件となるよう標本を抽出の上、その反収を調査し、JAいぶすき全体の平均反収との比較を行った。

スナップえんどうについては、標本3件の内、指宿地区と山川地区は摘果作業後葉面散布を実施したが、樹勢回復には至らず2月以降の収量は「0」であった。また開聞地区の標本においては、葉面散布・摘果作業により早期樹勢回復を図り、若干の効果は見受けられたものの、完全な樹勢回復には至らず収量減となった。

実えんどうについては、標本2件の内、指宿地区の標本では栽培時期が早く上段まで成長していることもあり、葉面散布を行ったが樹勢回復に至らず、2月以降の収量は「0」であった。山川地区の標本では、3月にJAいぶすきの平均を上回る反収を得られたことが確認できた。これは、追加の摘果作業や葉面散布等の被害対策作業の効果と圃場の環境なども影響していると考えられる。

ソラマメについては、標本2件の内、指宿地区と山川地区の標本とも2月以降の収量は「0」であった。これは標本2件とも被害前に生長点の摘心を行っていたため、摘果作業や葉面散布を行っても効果は得られず、樹勢回復は困難であったと考えられる。

全体として、2月以降の単収が「0」となっている標本が多かったが、これは、特に被害が大きかった生産者が本事業の申請を行っていることがその理由の一つと考えられる。

ただ、そのような中でもJAの平均反収を上回る標本があり、寒波被害後の薬剤散布や摘果作業を行うことで一定の収穫量を得られるという効果を確認することができた。